

小規模校における「協働的な学び」の工夫と学び続ける子供の育成
～国語科の読む領域における実践を通して～

三島村立三島竹島学園 教諭 吉海 直

【推薦のポイント】

- 極小規模校の異学年が1名ずつという複式学級において「協働的な学び」の充実に向けて、異学年の合同学習という学習方法を研究実践したことには大変価値があり、他校の参考になります。
- また、1回の検証授業で終わらず、1回目の授業の成果と課題を踏まえ2回目の検証授業を行い、さらに今後の取組に繋げるPDCAによる研究実践であり、教師としての子供たちへの深い愛情と教育活動への意欲を強く感じさせる教育実践です。

目 次

1	研究主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
3	研究の構想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	(1) 研究のねらい	
	(2) 研究の仮説	
4	研究の実際・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
	(1) 研究主題についての基本的な考え方	
	(2) 検証授業Ⅰの実際	
	(3) 検証授業Ⅰの成果と課題	
	(4) 検証授業Ⅱに向けての工夫・改善	
	(5) 検証授業Ⅱの実際	
	(6) 検証授業Ⅱの成果と課題	
5	研究のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
○	参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10

1 研究主題

小規模校における「協働的な学び」の工夫と学び続ける子供の育成 ～国語科の読む領域における実践を通して～

2 主題設定の理由

現代は将来の予測が困難な時代であり、答えが一つではない複雑な問題に対して、自ら考え、解決していく能力が求められている。総合科学技術・イノベーション会議(2022)の報告書によると、「すべての子供たちの可能性を最大限引き出すことを目指し、子供の認知特性を踏まえ『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実を図り、『そろえる』教育から『伸ばす』教育への転換」の必要性を述べている。

本校は、1年生～9年生各学年1人ずつ計9人が学ぶ義務教育学校である。幼少期から島内で生活している子供は2人で、他はしおかぜ留学生として県内外から親元を離れて里親と暮らす子供である。また、今年度から来た子供は半数以上にのぼる状況である。そのため、「学び方」が各々であったり、本校としての「学び方」の積み重ねが難しい状況であったりする。

本学級の5、6年生は2人である。しかし学年は異なるため1人で各々の学年の教材を使って学習をしている状況であり、一人一人に合わせた個別指導に努めてきた。2人しかいないが、困った時に担任を呼ぶタイミングが同じであったり、同じ教室にいてもそれぞれが別々に作業したりすることで同じ教室で子供がよりよく学ぶ方法はないのかと考える機会が増えた。さらに、学習以外で下学年と関わる際に上級生にまとめる役を任せきりにしている姿や、自分の思いを押し通そうとする姿が見られ、5、6年生としての役割や自覚が不足していた。本校のような極小規模校では、一人一人のニーズに合わせた個別の指導は行いやすい。一方で、極小規模校だからこそ協働的な学びを通して社会性やコミュニケーション能力を育むことも大切になる。

そこで本研究では、本校に合ったよりよい学習方法はどうか、各学年1人ずつしかいない本校での「協働的な学び」の工夫に取り組むことが重要であると考えた。

まず、前期生の全学年で「学び方」を共有し子供自身に身に付けさせるために、1～6年生まで同じ教室で学ぶことにする。次に、「協働的な学び」を充実させるために、同教科・同領域・異教材で教科の指導に取り組む。そして、教師自身が学年を超える学び、学びの連続性を理解し、どのように異学年の子供一人一人を見取って個別指導への生かすのかを明確にする。これらを行うことで、小規模校における「協働的な学び」の工夫と学び続ける子供の育成をすることができると考え、本主題を設定した。

3 研究の構想

(1) 研究のねらい

ア 子供が自分で学びを進めることができるように、教科の「学び方」を共有し、何を、どのように学ぶかを明確にする。

イ 同学年ではなくても「協働的な学び」が発揮できるように、学習環境の工夫をする。

ウ 個別の適切な指導につなげるために教師の役割を明確にする。

(2) 研究の仮説

国語科の「学び方」を児童と共有し、何をどのように学ぶかを明確にした上で学習環境の工夫を行えば、小規模校における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が図られ、学び続ける子供を育成することができるのではないか。

学習指導要領(2018)では「単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと」と、単元を貫いた授業づくりの重要性が示されている。そこで、まず主体的な学びを促進するために、子供が自ら学習目標を設定し、学習計画を立て、自己評価を行うことができるように「学び方」を確立する。次に、学びの過程を大切にするために単なる知識の習得だけでなく、学び方そのものを教えることを重視し、既習事項内容との関連付けや見通しをもつことの意義を教える。さらに、自己決定した学び方で学んだり目標を達成したりすることで、学習に対する意欲を高め、学び続ける子供を育成するために自己評価を習慣化し、学習進度や成果を可視化することで、子供が自分の学習状況を把握し、目標に向かって学び続けることができるようにする。

また、本校は ICT を利用して、同じ三島村の他の島の学園と遠隔授業を行っている。同学年の意見に触れ、多角的に物事を考えるよい機会となっている。一方で、学習指導要領(2018)では「同じ空間で時間を共にすることで、お互いの感性や考え方等に触れ刺激し合うことの重要性について改めて認識する必要がある。人間同士のリアルな関係づくりは社会を形成していく上で不可欠であり、知・徳・体を一体的に育むためには、教師と児童生徒の関わり合いや児童生徒同士の関わり合い、自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験、地域社会での体験活動、専門家との交流など、様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶことが重要」と示されている。

そこでまず、仲間との協働を通じて多様な視点に触れ、学びを深めることの価値を体感できるようにするために異学年6人で学習する環境を整える。次に、対話を促し協働的に学ぶことができるように他の子供や教師との対話を通して、新たな視点を得たり、課題を解決したりする力を養うようにする。最後に教師の役割として教師が単に知識を伝えるだけでなく、子供たちの学びを促し、成長を支援するファシリテーターとしての役割を明確にする。子供一人一人の個性や学び方を尊重し、それぞれに合った指導を行い、学習活動を評価し、改善点や伸ばすべき点を具体的にフィードバックをする。

4 研究の実際

(1) 研究主題についての基本的な考え方

ア 「協働的な学び」が発揮される子供の姿とは

本研究では「協働的な学び」が発揮される子供の姿を以下のように捉えた。

子供が「対話」することで、より多くの考えを知ったり、困った時に学年を越えた友達に聞いて納得したりしながら、自分の考えを整理、決定し、学習を進めていこうとする姿

中央教育審議会(2021)は「探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する『協働的な学び』を充実することも重要である。」としている。

小規模校では、同学年の友達がいなかったり学習においても多様な意見に触れ合う機会が少なかったりする。しかし、多様な意見に触れ、多様な他者と協働して話し合ったり考えたりしたうえで、自分の考えを発展させることはこれからの時代に求められる力である。そこで、同学年ではなくても同じ教材で学んできた上学年へ考えを聞くことで多様な考えに触れ、多様な他者と協働することが必要であると考えた。

イ 「学び続ける」子供の姿とは

本研究で「学び続ける」子供の姿を以下のように捉えた。

どんな内容を学ぶのかを理解し、単元の見通しをもち、どのような方法で課題を解決していけばよいのかが分かり、学習に取り組む姿

子供が見通しをもち、学び続けるためには「学び方」をしっかりと教える必要がある。文部科学省(2021)は、「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な一体的な充実

に関する参考資料」において子供が主体性を発揮して学びを進める力、自己の感情や行動を統制する力、自分自身について振り返り、次の学習に生かす力を育成するためには「学習の目標や教材について理解し、計画を立て、見通しをもって学習し、その過程や達成状況を評価して次につなげるなど、学習の進め方を自ら調整していくことができるよう、発達の段階に配慮しながら指導することが大切」としている。

このことから、子供が学び続けることができるためには、子供自身に学習の目標を理解させた上で計画を立て、見通しをもたせるための力を身に付けさせる必要があると考えた。

(2) 検証授業Ⅰの実践

ア 検証授業Ⅰの視点

以下3つの視点を持ち、検証授業の視点とした。

【視点1】 「学び方」の共有

単元全体を見通すことができるように、単元計画表を作成する。その際、自分のゴールを自己決定することで、何を、どのように学ぶかを明確にする。

【視点2】 協働的な学びの工夫

同教科・同単元異内容による指導を計画し、6学年が同じ場で共に学習することで「読む」領域の学び方を深めることができるようにする。

【視点3】 教師の役割の明確化

本時の学びで明らかになったこと、どのように学んだか、次時はどのように学ぶかを振り返り、共有する。個に応じたフィードバックができるように、次時の発問や目標の確認を声掛けするなど一人一人の学びを支援できるようにする。

イ 授業の実践

(ア) 「学び方」の共有

これまで物語文をどのように学習してきたのか子供と「学び方」を共有することで物語文の学び方の見通しを持ち、意識できるようにした(写真1)。自分の問いから、中心人物の行動や気持ちがどのように変容したかを読み取る。

その際に必要な読みの視点をいつでも見られるようにしておくことで「読む」ための見通しをもつ。また、いつでも見返すことができるようにICTを活用し、物語文の学習の仕方を共有した(図1)。

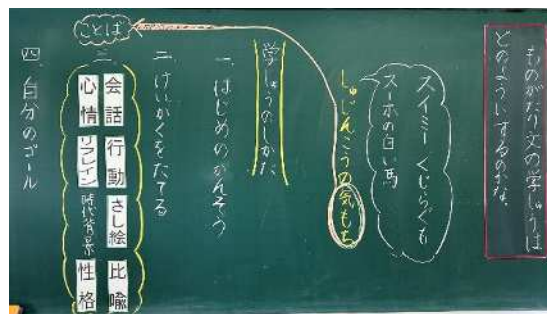


写真1 「学び方の共有」

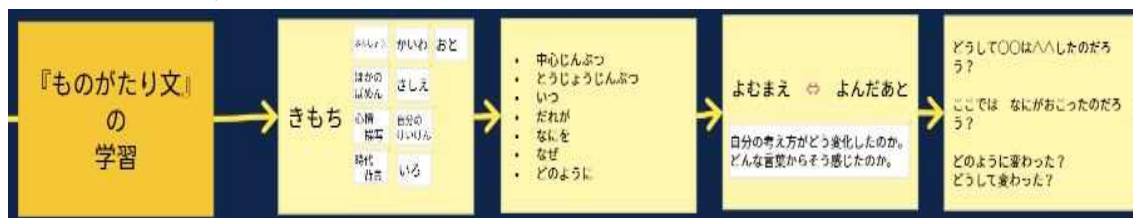


図1 物語文の学習の仕方

(イ) 「見通し」の共有

学習内容の目標を知り、一人一人が単元のゴールを自己決定する。そうすることで1単元時間の学習を見通した計画を立てることができる(図2)。

初めて自分で単元のゴールを立てたので、

どんな物語か、感想を書く
カルの本に対する心情
カルのブック・ウーマンに対する心情
ブック・ウーマンの心情
カルの本に対する心情の変化
カルのブック・ウーマンに対する心情の変化
自分の考え・まとめ

図2 単元の計画カード

友達と同じようなゴールになったり、自分一人では考えられなかったりした子供もいた。その場合は、これまで同じ教材で学習してきた上級生にアドバイスをもらい、教師から助言を受けながら自己決定する子供がいた(写真2)。



写真2 アドバイスを受ける子供の様子



写真3 学習過程の提示

また、困ったらどうするのか、終わったらどうするのか解決方法の見通しをもち、1単位時間の学習過程を意識して学習ができるように見通しをもたせた(写真3)。

(ウ) 協働的な学びの工夫

a 学びの共有

友達の学習から学ぶことができるように、各児童の学習過程や学んだことの分かる振り返りカードを共有し、いつでも見られるようにした(図3)。



図3 学びの共有

b 人的環境設定

困ったらすぐに聞きやすいように、低学年と高学年のペアで机の位置を設定した。また、教師においてはT1, T2, T3と三角の位置に立ち、学びを促すためのファシリテーターとしての役割や、意図的発問をすることで読みを深める支援を行ったりした(写真4)。



写真4 人的環境設定

(エ) 評価基準

子供がどのような姿で学びを進めていたら「学び続けている」と言えるのかを教師で話し合い、図4のように評価基準を設定した。評価を明確にすることで、学ぶことにつまずいている子供に対して個別の支援を的確に行うことにつなげた。

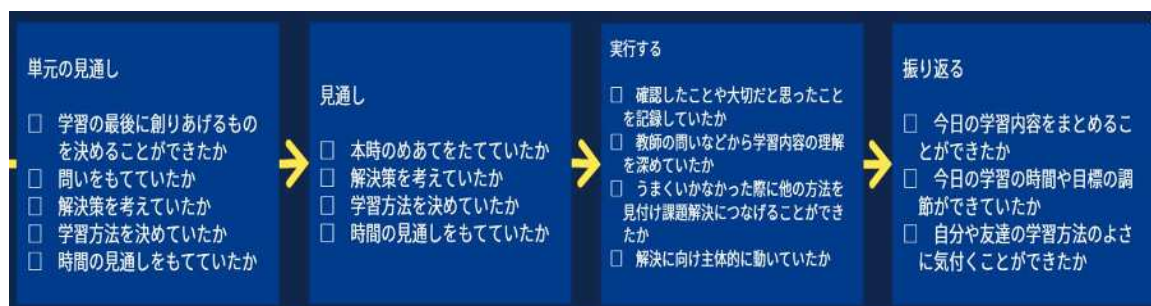


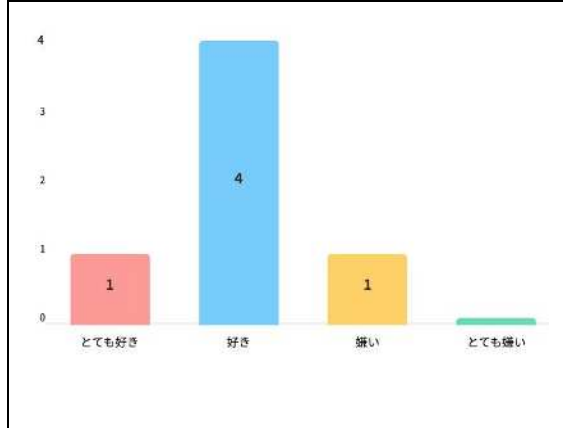
図4 学び続けている子供の姿の評価基準

(オ) 1単位時間の子供の様子

	学習内容や活動	実際の様子
導入	1. 各自本時の学習の見通しをもち、学習方法を決めて本時のめあてを立てる。 1年：いもむしはどんな気持ちでやくそくをしたのだろうか。 2年：かえるくんはどんな気持ちでお手紙を渡したのだろうか。 3年：ちいちゃんはどんな気持ちでかげおくりをしたのだろうか。 4年：ごんはなぜいたづらをしたのだろうか。 5年：娘は平和記念館で何を考えたのだろうか。 6年：5月の川底はどんな様子だろうか。	第1時に立てた単元計画を参考に本時のめあてをカードに書き込む。【視点1】 特に見通しをもちづらい子供へ本時の学習の見通しをもっているか個別に声をかけることで学習を促す。【視点3】

展 開	2. 課題解決に向けて、文章を読んだり各自の方法でまとめたりする。 【文章の読み取りの着目】 低学年：挿絵，会話，時間の流れ 中学年：場面との違い，気持ちの変化 高学年：行動，心情，時代背景 【学年に応じたまとめ方】 低学年：吹き出し，音読，動作化など 中学年：音読，感想カードなど 高学年：あらすじ，読み比べなど	 中心人物の気持ちが分からず，上学年にアドバイスを求める様子。他の学年も集まり多様な意見に触れる姿。 【視点2】	 自ら席を立ち，アドバイスをもらいたい友達のところへ移動したり，違う教室で音読の練習をしたりする姿。 【視点2】
終 末	3. 本時の学習内容のまとめをする。 1年：遠くに行きたい気持ちになった。 2年：がまくんを喜ばせたい気持ちになった。 3年：まだ小さいから楽しかった。 4年：何も考えずに遊んでいた気持ち。 5年：アヤが過ごした時代のことを知りたかった。 6年：色々な食べ物を食べ明るい様子。	【今日の問い】 絵は，平和記念公園で何を考えたのだろうか。 【今日のまとめ】 大勢の人が亡くなった事が信じられない。 【うまくいったこと】 文から気持ちなどを読み取ることができた。 【むずかしかったこと】 時間が足りなくて更に進める事ができなかった。 【学び方】ひとり・ともだち・先生・教科書・本・タブレット・その他 【次回の学び】 123pを渡める。 1枚で本時の目標，内容の読み取り，学び方，次時への見通しが分かるように振り返りを毎時間行い，自己評価ができるようにする。また，次時の支援につなげる。【視点3】	

(カ) 子供のアンケート 【R6.9.26 タブレットによる質問紙法】

【質問1】 みんなでする国語の学習は好きですか。	
	理由（とても好き，好き 5人） ・ みんなに聞けてうれしいから ・ すぐ先生や先輩，友達に聞ける。 ・ 多い方がみんなで助け合えやすい。 ・ にぎやかで楽しくなる。 ・ 2人だけでやっていたから。 理由（嫌い 1人） いちいち聞かれるのがめんどくさい。気を遣って考えないといけないのに相手の納得いく答えを出さなかったら結局，嫌な気持ちになる。
【質問2】 国語の学習で難しいことは何ですか。（複数回答可）	
・ 時間がたりない（3人） ・ 自分の気持ちを書く（2人） ・ 解決方法を考える（2人） ・ 文章を読むこと（1人） ・ 今日の学習は何かを考える（1人）	
【質問3】 6人で学習することは2人で学習する時よりどんな自分に成長しましたか。	
・ 教えてもらったり助け合えた。 ・ たくさんの先生や友達に聞いた。 ・ 友達に聞けるようになった。 ・ 下の学年の人に教えられる。 ・ 相手に教える能力が高まった。 ・ 1人で学習する時よりわからないときに友達に聞けるようになった。 ・ 楽しかった。自分で考えられないことも考えることができた。	

(キ) 教師のアンケート 【R6.9.26 聞き取りによる調査】

- ・ 初めて6学年合同での国語の学習だったが、どこまで子供の思いにゆだねていいのか、子供自身が考える単元のゴールで、本当に読みが深まるのか指導や支援の仕方が分からなかった。計画段階で積極的に介入して軌道修正を図る必要があると感じた。
- ・ 低学年だと教材文が短く、とても早く進むことがあって他学年と合わせる時数の計画にとまどった。一方で、2人でする学習より発表の場や多くの人の前で話す機会が増え、経験ができてよかった。

(3) 検証授業Ⅰの成果と課題

【視点1】「学び方」の共有（○…成果，●…課題）	
○ 全学年で「学び方」を共有することで「読む」領域の学び方を理解することができ、文章などに着目して中心人物の気持ちを読み取ることができた。	● 発達段階の違いや、時数の設定、目標の違いにより、個別の支援の仕方などが異なるため何をどのようにそろえるのか、どこまでを子供にゆだねるのかを明確にする必要がある。
○ 単元の目標を知り、最終ゴールから目的意識をもち続け読むことができた。	● ICT を活用して学習の蓄積を分かりやすく示すため、整理する時間が必要である。
【視点2】協働的な学びの工夫	
○ 仲間の学ぶ姿から学ぶことができるように、環境の工夫ができた。	● 低学年が高学年に何でも聞くことで、高学年が質問する場面が少なかった。そのため、自分たちで学びを深める機会が他の学年に比べて少ない。
○ 困ったらすぐに友達に聞くことができることで、安心して一緒に学ぶことのよさを子供自身が実感することができた。	
【視点3】教師の役割の明確化	
○ 毎時間の振り返りの習慣を身に付けさせ、振り返りカードを提出させることで、次時のフィードバックがしやすかった。	● 「何を」「どのように」振り返るのかを考えさせたり、単元を貫く目標の設定の際や読みを深める意図的発問などの準備などが足りなかったりした。
○ 子供の様子を見ながら、共通の評価基準を考えることができた。	

(4) 検証授業Ⅱに向けての工夫・改善

ア 「学び方」の共有

最終目標だけでなく、最終目標を達成するためには何をどのように読んでいけばよいか、1単位時間の目標を具体的にもたせられるようにする。

イ 協働的な学びの工夫

高学年において、遠隔学習で発表の場を設けることで、同学年での学びを促す。

ウ 教師の役割の明確化

教師の役割を個の支援に特化し、一人一人の「学び方」を把握した上で、目標設定場面や読みを深める意図的発問を積極的に行うことで読みを深めていけるようにする。また、学びの蓄積の整理を促したり、意見の比較をしたりすることで見方・考え方を深められるようにする。

(5) 検証授業Ⅱの実際

ア 検証授業Ⅱの視点

以下3つの視点を持ち、検証授業の視点とした。

【視点1】 「学び方」の共有

単元の見通しをもてるように、学習に入る前に単元の見通しカード作成の時間を確保する。また、振り返りカードに何を書くかを確認する。本時の学びで明らかになったこと、どのよう

に学んだか、次時はどのように学ぶかを振り返ることによって学び方を明らかにする。

【視点2】 協働的な学びの工夫

高学年は本校以外の同学年との協働的な学びの工夫を行う。

【視点3】 教師の役割の明確化

個に応じた指導の在り方を明確にする。毎時間に振り返りの提出と共有を行い、次時の支援を行う。

イ 授業の実践

(ア) 「学び方」の共有

カードに何を書くかを共有することで、何を読み取るかを明確にした。また、自分が読み取りに使った視点のカードを振り返りに貼ることでどのように読み取ったかを明確にした。

6年生の振り返りの記入を例に見てみると検証授業Ⅰより、どんな視点に着目し文章

を読み取ったのか分かりやすく記入されている(図5)。さらに、教科書のどの言葉に着目したのか分かるように、教科書に線を引いたあとを残した写真も添えられるようになった。

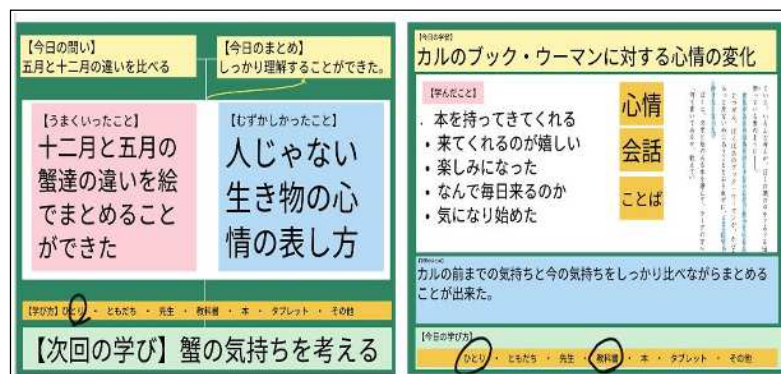


図5 6年生の振り返り

(イ) 「見通し」の共有

検証授業Ⅰで「時間が足りない」と答えた子供が3人もいた。理由として、学習の見通しを十分にもっていないためだと考えた。そこで、単元計画を立てる際に無理はないか、1時間でどのように学びを進めるかを教師と対話しながら見通しをもち、毎時間どこをどのように読み取るかを

明確にした。2年生が立てた単元計画を例に見てみると検証授業Ⅰより、多くの具体的な計画が書かれていることが分かる(図6)。

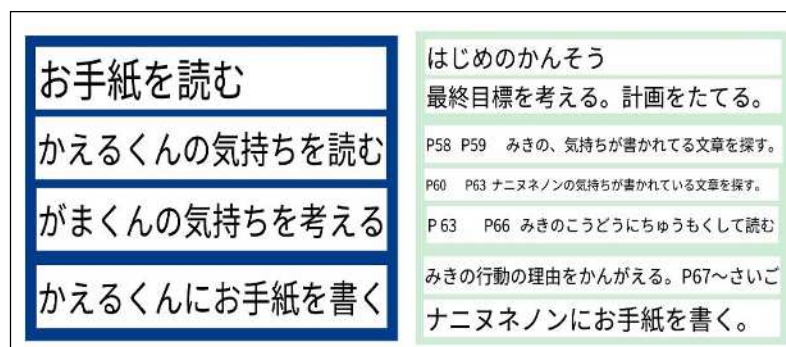


図6 2年生の単元計画

(ウ) 協働的な学びの工夫

最終単元のゴールを他の学校の同学年と発表をした。各学校の進度が異なり、同じ時間での発表が難しかったため、ICTを活用して後からコメントを書いてもらうようにした。このアプリでは、自分の作成した文章などをそのまま載せることができ、それを見た人がコメントができる機能がついている。同じ場所で同じ時間に学んでいなくても、同じことを学んでいる児童にとってはよい発表の機会である。

(エ) 教師の個別支援

以下のように具体的に子供の姿を見取ることで、本単元で育成したい子供の資質・能力を明確にした。

1年	時間の流れに沿って、「たぬきの行動・心情が変化する様子」について整理できるようにする。また、心情を汲み取りやすくするために、たぬきの行動を動作化させる。そのことを生かして音読の工夫につなげるように促す。
----	---

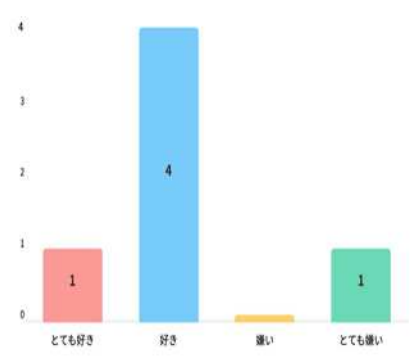
2年	「みき」と「ナニヌネノン」のやりとりの様子を詳しく思い描くことができる言葉を文章の中から見付け、その様子を動作化させる。また、どうしてそのような行動をとったのか、その理由についても考え言語化できるように問う。さらに、そのことを生かして音読の工夫につなげるように促す。
3年	おじいさんに何が起きてどのような気持ちになったのか捉えることができるように、言葉から受け取る感じを動作化させたり、前の場面までのおじいさんの言動と結び付けたりして、おじいさんの気持ちを表す叙述に着目し、自分なりの考えを表現できるように促す。
4年	これまでに学習した物語文を想起させ、気持ちの変化を捉えるときの着目する言葉に視点をもちかへせるようにする。また、自分なりの「なぜだろう」と思うような登場人物の行動や様子について着目させ、面白いと思ったことについて理由を問い掛けることで、「東君」と「西君」の2人の気持ちの変化を具体的に想像できるように支援する。
5年	自分で読み進むことができるように「何をどのようにして解決するか」を確かめ、見通しをもてるようにする。また、課題解決で困っている際に「何に困っているのか。」その場合「前の単元でどのように解決したか」を問い、過去の学習から学びを進められるようにする。
6年	叙述を基に読みを深めることができたかを問い、自分の感想の根拠を明らかにする。その際、根拠となった言葉に線を引かせる。また、「自分ならどう思うか。」と問い、自分の経験と結び付け自分の考えをより深めることができるようにする。

(オ) 1 単位時間の子供の様子

	実際	時間	指導上の留意点と評価(○留意点 ●評価)
導入	1. 各自本時の学習の見通しをもち、学習方法を決めて本時のめあてを確認する。 173p～175pを読んで内容をまとめる。 ↓ T:何を知るために詳しく読むの? 【今日の学習】 173p～175pの柳瀬たかしの生き方を読み取る。 C:柳瀬嵩さんの生き方を知りたい。	3分	○ 各自の学習計画に基づいて、本時の学習の見通しをロイロノートから確認できるようにする。【視点1】 その際、前時の振り返りから、個に応じて学習内容を深める発問や学習方法の見通しがもてるように各担任が個別に支援をする。【視点3】 ● 本時の学習の見通しをもっているか。 ● 自分で選択し自己決定した方法で学びを進めようとしているか。
展開	2. 課題解決に向けて、文章を読んだり、各自の方法でまとめたりする。 「おじいさんもおばさんもよくして、胸がつぶれるようにさびしいのは、弟の千尋にもそんな思いを打ち明け、さす、中学校に進むころには、たか、年になっていった。 そんなたかしの救ったのは、絵をた。夢中になってかいてるときは、しはいつしか、将来はまんが家にな ↓ T:どうしてここに線を引いたの? C:嵩さんの気持ちが分かるところだから。 T:どんな気持ちが分かったの? C:両親が亡くなって、引き取られて寂しいときは絵を描くことで気を紛らわしていた。 T:それが絵本やアニメをかくきっかけになって、柳瀬さんの生き方につながっていくんだね。	35分	○ 読みの視点を想起できるように、どの言葉に注目したのか主人公はどうしてそのような言動をしたのかを問い、内容の読み取りを深められるようにする。また、ロイロノートを使ってこれまでの文学的文章教材を扱った学習を振り返るよう促す。【視点1】 ○ T1, T2, T3それぞれが個に応じた支援を行う。【視点3】 ● 前時までの学習内容を活用して場面同士の比較や表現等に着目して読み取ることができたか。 ○ 文章や挿絵などから、根拠を明らかにして学習のまとめができるように「なぜそのように考えたのか」と問い、文章などを詳しく読み取ることで登場人物の気持ちを想像できたことを明確にする。【視点1】 ● 課題解決に向けて自分なりの学習方法を自己選択自己決定することができたか。

3. 本時の学習内容のまとめをし、学び方を振り返る。 【今日の学習】 173p～175pの柳瀬たかしの生き方を読み取ろう。 【学んだこと】 「僕も、何かできることをしなければ」 子供達に、元気を与えたい。 人のために、出来るのは、パワーがある。困っている人を、救ってあげたい。人を助けたいという、気持ちが強い。 『内気な少年』 になったから、絵を描くことに夢中になった。 『19歳で、中国vs日本の戦争に行く事になった。』 食べるものが無かった。たんぼぼや雑草、上官が飲んだ、お茶の茶殻。(自分だったら、食べたくない。) 【学習のまとめ】 親が、いなくて、絵を描くことが生きがいであったけど、戦争が始まり、戦争に行くことになった。 【今日の学び方】 ひとり ・ ともち ・ 先生 ・ 教科書 ・ 本 ・ タブレット ・ その他 4. 友達の振り返りカードを読んで、感想をもったり学び方を学んだりする。	● 困ったら、友達や教師に質問しながら学び続けることができているか。 ● 本時の学習内容を生かした感想や音読などの成果に表れているか。 ○ 本時の課題を解決するために着目した読み取りの視点の有効性やどのようにして課題を解決できたか等自身の学び方を振り返ることができるように問う。 【視点1】 ○ 本時の学習で分かったことが、本単元で育成したい資質・能力と比べどのように達成できているか。次時の個別指導の根拠にする。【視点3】 ○ 学びの蓄積になるようにする。【視点1】 ○ 次年度以降も活用できるように、ICTで保存し、記録しておく。【視点2】
---	--

(カ) 子供のアンケート 【R6.11.15 タブレットによる質問紙法】

【質問1】 みんなでする国語の学習は好きですか。  <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても好き</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>好き</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>嫌い</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>とても嫌い</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	回答	人数	とても好き	1	好き	4	嫌い	0	とても嫌い	1	理由 (とても好き, 好き 5人) - 先輩に聞けるから。 - みんなに聞けるから。 - 賑やかで、1人だけでなく、5人以上の意見が聞ける。 - みんながたくさん助けてくれたりアドバイスをくれるから。 6人で授業すると楽しくなる。 理由 (とても嫌い 1人) 質問されるのがめんどくさい。
回答	人数										
とても好き	1										
好き	4										
嫌い	0										
とても嫌い	1										
【質問2】 国語の学習で難しいことは何ですか。(複数回答可) - 解決方法を考える (3人) - 自分の気持ちを書く (3人) - 時間がたりない (1人) - 振り返りを書く (2人) - 本時の学習のまとめを書く (2人)											
【質問3】 6人で学習することは2人で学習する時よりどんな自分に成長しましたか。 - 教えられる。 - たくさんの文を書けるようになった。 - いろんな考え方が出る。 2人で授業するより6人で授業する方がわからないときに聞ける。 - みんなに聞けるようになった。 2人の時よりたくさんアドバイスができるようになった。											

(キ) 教師のアンケート 【R6.11.30 聞き取りによる調査】

- 学力にどう影響が出るのかを心配していた。子供が学ぶ中でテストの問題とのずれを感じていた。しかし、県版テストをしても結果は1学期と大差なかったことから、学力が下がる心配はなかった。
- 本人が見出した課題に向けて、本人なりの方法を自分で決定して学習を行うことが低学年からできることが分かった。

(6) 検証授業Ⅱの成果と課題

【視点1】「学び方」の共有 (○…成果, ●…課題)	
○ 時間の確保をすることで一人一人がしっかりと「学び」の見通しをもてた。	● 自分の考えと友達の考えを比較することで、なぜ納得解を出せたのか思考の根拠を明確にする学び方をする必要がある。
○ 何をどのように学んだのかを理解し振り返りカードに書くことができた。	● 教科書や人に聞く以外に読みを深める方法を子供に提示することができなかった。より学習環境を整える必要がある。
○ 毎時間の振り返りの習慣を身に付けることができた。	
【視点2】協働的な学びの工夫	
○ 同学年と意見の交流の場を設けることができた、場は違えど同じように学ぶことができた。	● 他校と同じタイミングで学び合えなかったため、学習計画や学習の時期を合わせていく必要がある。
【視点3】教師の役割の明確化	
○ 子供が見通しをもてるように、計画段階で積極的に対話をするすることで、必要な「学び方」を身に付けさせることができた。	● 個に応じた支援の仕方を考え、教科の内容をより深く学ぶことができるようにする必要がある。
○ 次時に向けてフィードバックを丁寧にすることで改善しながら進めることができた。	

5 研究のまとめ

「学び方」の共有において、今年度は国語科の同領域で異学年による合同学習をした。子供たち自身が異学年で学ぶよさを実感し、どの学年になっても同じように学んでいけばよいことを体感することができた。一方で、他教科への汎用性がなかった。そのため次年度は他教科で本研究を活用して同じように自分たちで学習を進めることができるか検証していきたい。さらに、今年のICTでの学びの蓄積を活用して自ら学びを進めることができるかを検証していきたい。今後は、教師が変わっても、友達が変わっても、学年が変わっても同じように学び続けることができるかを見届ける必要がある。

協働的な学びにおいて、異学年の合同学習という環境設定をした。答えが一つではない問題に対して、自分が何をするのかを思い描き、そのために準備をしたり手順を考えたり先を見通したりして、周りにアドバイスをもらいながら協力して解決していく力が身に付き、一人一人の成長を促す学びの場となった。

教師の役割において、この取組によって「教え込む」ことから「気付かせて自ら学ぶことを促すことの大切さ」に気付くことができた。今後は教科や学年を越えた汎用性を確かめる必要性や教師の人数を減らしても変わらず子供の学びを見取ることができるかを検証していく必要がある。

○ 参考文献

- ・ 文部科学省 小学校学習指導要領解説国語編 東洋出版社 2019
- ・ 櫻井 茂男 ウェルビーイングをデザインする小中学生の非認知能力 図書文化 2024
- ・ 奈須 正裕 個別最適な学びと協働的な学び 東洋館出版社 2021
- ・ 木村 明憲 自己調整学習 明治図書出版株式会社 2023
- ・ 文部科学省中央教育審議会(2021) 『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)』
https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf
R6.8.4 閲覧

- ・ 文部科学省(2021) 『学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な一体的な充実に関する参考資料』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiouen/mext_01317.html
R6.7.25 閲覧
- ・ 総合科学技術・イノベーション会議(2022) 『統合イノベーション戦略 2002』
https://www8.cao.go.jp/cstp/tougosenryaku/togo2022_honbun.pdf
R6.7.25 閲覧